

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

〔令和7年度甘味資源作物対策決定〕

12月11日(水) 令和7年度さとうきびでん粉原料用かんしょ交付金単価および関連対策について、農林役会、野菜・果樹・畑作物等対策委員会、総合農林政策調査会、農林部会合同会議を経て、決定致しました。

12月10日(火)の野菜・果樹・畑作物等委員会において出席議員より三役(宮下総合農林政策調査会長、上月農林部会長、野菜・果樹・畑作物等対策委員長(私)に一任いただき、農水省通じて財務当局との折衝を経て、交付金単価および関連対策の提示に至りました。さとうきびは、計算上引き下げ傾向の中で据え置くことができ、でん粉原料用かんしょは、引き上げることができました。他にも、様々な関連対策を確保できました。北海道畑作(てん菜、でん粉原料用はれいしょ等)についても、補正予算含め関連対策を確保しております。

今回、野菜・果樹・畑作物等委員長を拝命し、尽力して参りました。無事に決着に至ることができました。生産者・生産者団体の皆様はじめ、農林水産省、農林関連議員の皆様のご尽力に深く感謝致します。今後は、次期食料・農業・農村基本計画の策定に合わせ、品目別基本方針(果樹、花き、茶)の見直しに向け、野菜・果樹・畑



▲12月11日自民党野菜・果樹・畑作物等対策委員会

作物等対策委員長として、最大限務めて参ります。

〔令和7年度税制改正最終とりまとめ〕

12月20日(月)に、自民党税制調査会小委員会が開催され、令和7年度税制改正要望にかかる〇×審議が行われましたので、農林部会長代理として出席しました。会合には、農林部会による税制改正要望のうち〇×のついた項目に対して、上月良祐農林部会長を筆頭に数名の農林関係議員とともに、復活要望を行いました。私も含め農林議員により活発に意見を出すことができました。

12月6日(金)、同小委員会が開催され、令和7年度税制改正要望にかかるマル政項目(引き続き審議の項目)の議論が行われました。私は、農林部会長代理として出席し、上月良祐農林部会長と共に農林関連のマル政項目について、要望実現に向けて意見を述べました。

12月13日(金)、同小委員会が開催され、これまでの議論をふまえ、各部会からの税制改正要望にかかる最終とりまとめが行われました。農林部会の重点要望は、ほぼ要望どおりに措置いただきました。小委員会終了後、農林関係団体への報告会が開催されました。上月農林部会長が公務により欠席のため、私から団体の皆様方に結果を報告させていただきました。これまで農林部会長代理として税制調査会の議論に毎回参画させていただきましたが、一定の成果を出すことができました。



▲12月13日自民党税制農林団体報告会

全国・農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「国家」の責務は、安定した生産と地域を維持するにあります。

平成30年産から、行政による生産数量目標の配分が廃止され、生産者は、それぞれの地域の特性等を考えながら、自らの経営判断によって、需要に応じた〇×の生産と販売を行うこととなりました。つまり、〇×生産は、政府の一定の支援のもとに、生産者の取り組みに委ねられることとなったのです。

しかし、大凶作や、大混乱や、不作の連続や、価格の低迷で、個々の農業者や、農村地域の安定が損なわれることにならないための対策は準備されているのか。また、農業者を組織しているJAや営農組合や自治体は、役割を果たしているのか。その一方で、地域や、国土を荒廃させてしまわないのか。安定した秩序と安寧を崩してしまわないのか。まさに、これらのことを常に点検しながら、進めてゆかねばならないのに、そのことが全く触れられていません。

必要なのは、これら二つ二つの懸念を克服し、安定した生産と生活と、地域を維持していく取り組みを進めなければならないのです。難しいですが、それが「国

家」としての責務であります。

そうでなければ、山々が荒れ、緑が失われ、大地を緑で潤す水田や畑を荒廃させることとなります。これでは、日本を壊します。緑一杯の美しい故郷を、地方を、食品企業を守り育て、元気にして、豊かな食の恵みを届けようではありませんか。そのために知恵と工夫を発揮しましょう。地方を、地域を、農業を壊してはならないのであります。

そして、世界各国の取り組みに先行して、我が国における食料安全保障の取り組みを具体化しましょう。

全国のJAと農業者と地域は一体となって、求められる食料の安全保障の確立を目指して、全力を上げましょう。



▲JA世田谷目黒青壮年部のみなさんと